

作成日 2020/07/31  
改訂日

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

製品名 厨房・ホール用洗剤 除菌剤 消臭成分配合 さわやかなミントの香り (パワフルクリーナー)  
会社名 株式会社MonotaRO  
所在地 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町2-183 リベル3階  
担当者名 商品お問合せ窓口  
電話番号 0120-443-509  
FAX番号 0120-289-888  
整理番号 M200731

### 2. 危険有害性の要約 化学品のGHS分類

健康有害性 皮膚腐食性／刺激性 区分2  
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分1  
生殖毒性 区分2  
特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(肝臓 呼吸器)  
環境有害性 水生環境有害性 短期(急性) 区分1  
水生環境有害性 長期(慢性) 区分2  
上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

### GHSラベル要素

#### 絵表示



注意喚起語 危険  
危険有害性情報 H315 皮膚刺激  
H318 重篤な眼の損傷  
H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い  
H372 長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓、呼吸器の障害

#### 注意書き 安全対策

H400 水生生物に非常に強い毒性  
H411 長期継続的影響によって水生生物に毒性  
使用前に取扱説明書入手すること。(P201)  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)  
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)  
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)  
環境への放出を避けること。(P273)  
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)

#### 応急措置

皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。(P302+P352)  
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)  
ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察／手当てを受けること。(P308+P313)  
直ちに医師に連絡すること。(P310)

気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314)

皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。  
(P332+P313)

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。  
(P362+P364)

漏出物を回収すること。(P391)

保管  
廃棄

施錠して保管すること。(P405)

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
脂肪酸アミドプロピルベタイン	非公開	不明	不明	不明	不明
アルキルアミノオキシド	非公開	不明	不明	不明	不明
陽イオン界面活性剤	非公開	不明	不明	不明	不明
ジエチレングリコールモノノールマルーブチルエーテル	5.0～10.0%	HOCH2CH2OCH2CH2OCH2CH2OH	(2)-422,(7)-97	既存	112-34-5
1-アミノ-2-プロパノール	4.0%未満	CH3CH(OH)CH2NH2	(2)-323	既存	78-96-6
植物抽出エキス	非公開	不明	不明	不明	不明
キレート剤	非公開	不明	不明	不明	不明
2,6-ジ-tert-ブチル-4-クレゾール(BHT)	1.0%未満	不明	(3)-540,(9)-1805	既存	128-37-0
色素	微量	不明	不明	不明	不明
香料	微量	不明	不明	不明	不明
水	残部	不明	不明	不明	7732-18-5

### 4. 応急措置

吸入した場合

使用中に気分が悪くなった場合は、直ちに作業を中止し、速やかに通気の良い場所で安静にすること。気分が回復しない場合は医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

水でよく洗い流すこと。  
皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当てを受けること。  
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合

目を擦らず直ちに清浄な水で15分間以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易外せる場合は外して洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の手当てを受けること。

飲み込んだ場合

水で口の中をよくすすぎ、無理に吐かせないでコップ1-2杯の水または牛乳を飲ませるなどの処置をすること。気分が悪いときは医師の診断を受けること。

### 5. 火災時の措置

適切な消火剤  
特有の消火方法

この製品自体は、燃焼しない。  
火元への燃焼源を絶ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火作業は、可能な限り風上から行う。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置  
環境に対する注意事項

漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。  
流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。  
大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。  
漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。

封じ込め及び浄化の方法  
及び機材

少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。  
大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。  
漏出したものをすくいとり、または掃き集めて紙袋またはドラム等に回収する。  
回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。

7. 取扱い及び保管上の注意  
取扱い

技術的対策

作業場の換気を十分行うこと。  
取扱いの都度、容器を密閉すること。  
眼、皮膚、衣類に付けないこと。  
ゴム手袋及び保護眼鏡を着用すること。  
取扱い後はよく手を洗うこと。

局所排気・全体換気

取扱う場合は、屋外または全体換気の設備のある場所で取扱う。

注意事項

みだりにエアロゾルが発生しないように取扱う。

安全取扱注意事項

アルカリ性なので、酸性の製品との接触を避ける。  
アルミニウム、錫、亜鉛などの金属を腐食し、水素ガスを発生するため、これらの金属との接触を避ける。  
容器を転倒、落下させ、衝撃を与え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。

保管

安全な保管条件

直射日光を避け、換気のよい場所で容器を密閉し保管すること。  
酸と一緒に保管しないこと。  
酸化剤並びに酸化性の強い物質との保管は避ける。  
冬期は凍結を避けるため、0℃以下にならない場所で保管すること。  
アルミニウム製の容器に移し替えると水素ガスを発生しながら缶を腐食し、液漏れや容器が破裂するおそれがあるため、アルミニウム製容器への移し替えは避ける。

安全な容器包装材料

開栓した容器で再び保管する時は、密栓をよく確かめること。  
他の容器に移し替えて保管しないこと。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
2,6-ジータータリブチル-4-クレゾール(BHT)	未設定	未設定	TWA 2 mg/m3(IFV), STEL -
ジエチレングリコールモノノルマル-ブチルエーテル	未設定	未設定	TWA 10 ppm(IFV), STEL -
1-アミノ-2-プロパノール	未設定	未設定	未設定
水	未設定	未設定	未設定

アルキルアミノオキシド	未設定	未設定	未設定
脂肪酸アミドプロピルベタイン	未設定	未設定	未設定
陽イオン界面活性剤	未設定	未設定	未設定

設備対策		取り扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
保護具	呼吸用保護具 手の保護具 眼、顔面の保護具 皮膚及び身体の保	必要に応じて保護マスクを使用する。 ゴム製保護手袋を使用する。 保護眼鏡を使用する。 保護衣を使用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態		液体
形状		液体
色		緑色透明
臭い		データなし
融点／凝固点		データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲		データなし
可燃性		データなし
爆発下限界及び爆発上限 下限		データなし
界／可燃限界 上限		データなし
引火点		引火せず
自然発火点		データなし
分解温度		データなし
pH		11.1
動粘性率		データなし
溶解度		水と任意の割合で混合する。
n-オクタノール／水分配係数		データなし
蒸気圧		データなし
密度及び／又は相対密度		1.01(代表値)
相対ガス密度		データなし
粒子特性		データなし

10. 安定性及び反応性

反応性		情報なし
化学的安定性		通常の状態では安定。
危険有害反応可能性		強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件		情報なし
混触危険物質		ハロゲン類、強酸類、酸化性物質と接触しないよう注意する。

危険有害な分解生成物 情報なし

11. 有害性情報

急性毒性	経口	急性毒性推定値が2807.0773744mg/kgのため区分5とした。
	経皮	JIS Z 7252に採用されていないため区分5から区分に該当しないに変更。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
	吸入	急性毒性推定値が5504.962406mg/kgのため区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。 (気体) GHS定義による気体ではない。 (蒸気)

		データ不足のため分類できない。 (粉じん・ミスト) データ不足のため分類できない。 10×(区分1+1A+1B+1C)の成分合計が49.8%のため、区分2とした。 眼区分1の成分合計が9.98%のため、区分1とした。
皮膚腐食性／皮膚刺激性		
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性		
呼吸器感受性		データ不足のため分類できない。 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。
皮膚感受性		毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
生殖細胞変異原性		データ不足のため分類できない。
発がん性		データ不足のため分類できない。
生殖毒性		(生殖毒性) 区分2の成分が5%のため、区分2とした。 (生殖毒性・授乳影響)
特定標的臓器毒性(単回 ばく露)		データ不足のため分類できない。 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。
特定標的臓器毒性(反復 ばく露)		毒性未知成分を考慮濃度(1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。 区分1(肝臓)の成分が10%のため、区分1(肝臓)とした。  区分1(呼吸器)の成分が10%のため、区分1(呼吸器)とした。
誤えん有害性		動粘性率が不明のため、分類できないとした。
12. 環境影響情報		
水生環境有害性 短期 (急性)		区分1×毒性乗率の成分合計が25.07%のため、区分1とした。
水生環境有害性 長期 (慢性)		(毒性乗率×10×区分1)+区分2の成分合計が55.9%のため、区分2とした。
生態毒性		データなし
残留性・分解性		データなし
生体蓄積性		データなし
土壤中の移動性		データなし
オゾン層への有害性		データ不足のため分類できない。
13. 廃棄上の注意		
残余廃棄物		内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。
汚染容器及び包装		空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意		
国際規制	海上規制情報 Marine Pollutant Liquid Substance Transported in Bulk According to MARPOL 73/78, Annex II, the IBC Code	非該当 applicable Not applicable
国内規制	航空規制情報 陸上規制 海上規制情報 海洋汚染物質	非該当 非該当 非該当 該当

	MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
	航空規制情報	非該当
緊急時応急措置指針番号		なし
15. 適用法令		
労働安全衛生法		名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)
		ジエチレングリコールモノブチルエーテル(政令番号:224の3) (1%-10%)
毒物及び劇物取締法		非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)		非該当
化審法		優先評価化学物質(法第2条第5項)
海洋汚染防止法		有害でない物質(施行令別表第1の2) 有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1) 有害液体物質(Z類物質)(施行令別表第1)
外国為替及び外国貿易法		輸入貿易管理令第4条第1項第2号輸入承認品目「2の2号承認」 輸出貿易管理令別表第1の16の項 輸出貿易管理令別表第2(輸出の承認)
特定有害廃棄物輸出入規制法(バーゼル法)		特定有害廃棄物(法第2条第1項第1号イ、平成30年6月18日省令第12号)
16. その他の情報		
参考文献		製造元メーカー提供資料 NITE GHS分類結果一覧 JIS Z 7252 GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z 7253 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 —ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
その他		経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス 日本ケミカルデータベース(株)SDS作成システム「ezSDS」により作成。 危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。